

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 めん類 >
コロナやロシアの侵攻等によりすべてが値上げ。ようやく昨年分の値上げが終わったばかりの状況だが、更なる価格改定ができなければ廃業も考える組合員が出てくるのが予想される。
2. <宮城県 水産練製品 >
先月と大差はないが、原料等全ての仕入コストが徐々に上昇を続けている。3月に商品の値上げをしたが、仕入れコストの上昇スピードの方が早く、商品価格を上げて追いつかない状況である。
3. <東京都 カレー粉 >
業務用は回復傾向にあるが動きは遅い。家庭用は巣ごもり需要の収束と前年の伸びの反動であまり動きはない。小麦粉やスパイス等原材料の高騰が非常に厳しく、企業努力は限界にきている。
4. <滋賀県 めん類 >
原料が高騰しても価格に転嫁できず収益を圧迫している。物価が上昇する中、消費者は益々価格の安い商品を購入する傾向にあり、収益アップに繋がる要素がない。
5. <京都府 パン・菓子 >
原材料や原油価格の高騰による配達経費等あらゆるものが値上がりしているが、製品価格をなかなか上げてもらえない。特に、大手スーパーが値上げを遅らせており苦しい状況が続いている。
6. <山口県 水産食料品 >
魚の水揚げ量が大幅に減少し、魚価（原料魚）の高騰が続いている。働く人が高齢化しており、人手不足が続いている。

繊維・同製品製造業

7. <山形県 成人女子・少女服 >
在庫の増加や雇用人員の減少、値上げによる加工賃への転換が反映できてないことなどから資金繰りは悪化につながっており、近いうちに加工賃への反映を本気で交渉しないとイケない。
8. <茨城県 袋物 >
戦争に加えて円安の影響で材料費が高騰してきた。新規発注も遅れている。国内生産に切り替える話もあるが、国内に戻っても現時点で対応は困難かと思われる。
9. <石川県 ねん糸等 >
売上はコロナ前に回復。人手不足のため、稼働率が減少し売上高が減少した企業もある。加工費が値上がり傾向にあり、発注量は少しずつ増えているが、まだ1カ月単位の発注の状態である。
10. <京都府 染織整理 >
依然として振袖以外のフォーマルをはじめ一般呉服の引合いは低迷している。更に染料や外注加工費等の製造コスト上昇で経営を一層圧迫しており、先行き不安な状況である。
11. <鳥取県 ニット製品 >
人流復活に伴い衣料品の消費動向に動きがあるが、売り場の変動は止んでいない。小売大手が値上げを表明しており、今後の消費、製品輸入動向により国内生産メーカーも影響を受ける。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
コロナ禍にあった昨年と比べると、人流の回復から商品の動きも活発になっている。しかし、前年の在庫を先に出しているため、製造枚数が完全に回復したとは言い難い。

木材・木製品製造業

13. <青森県 製材 >
県内の製材所は依然として厳しい状況である。輸入材が制限され国産材に転換しており、一般住宅の構造材はスギ・ヒノキの国産材を中心に活況を呈している。
14. <栃木県 一般製材 >
住宅用建材の合板が不足している。ウッドショックの影響は落ち着きを見せているが、合板不足が今後どう影響をしていくのか懸念している。
15. <埼玉県 木材・木製品 >
住宅の発注棟数は伸び悩むものの、一棟あたりの受注単価は上昇している。物価高による受注減少が心配で、資金繰りの悪化を懸念している。

16. <三重県 木材 >
欧州材を中心とした輸入材の仕入が依然困難な状況が続いている。住宅資材全般の品薄状態も続いていることから、前年同月比で原木、製品共に高値維持で推移している。
17. <徳島県 製材 >
木材価格は高止まりで、製品在庫は減少している。資材コストの高騰から住宅価格が上昇しており、今後の住宅着工が伸び悩むのではという憶測から、木材市況は先行き不透明な状況である。
18. <宮崎県 製材 >
引き続き国産材製品への代替需要が活発であるため、原木相場は高値で推移している。この好調さを背景に出荷者の出材意欲は旺盛であるが、需要を満たすほどの域には達していない。

紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >
材料が4月から値上がりしているが、価格の改定が遅れており収益を圧迫している。主原料も高騰しているが、その他ガス・電気等、様々なものが値上がりし、最終収益に影響が出始めている。
20. <東京都 紙製品 >
前月に続き、文具小売店の店頭売りは前年同期と比べて売上が減少している。一方、ネット販売は売行きが好調で、段ボール箱の需要は増加している。
21. <岐阜県 機械すき和紙 >
紙業業界は、業種による格差はあるものの売上高は回復基調に転じていると思われる。しかしながら、原油価格の値上げに対し販売価格の値上げが遅れており、収益状況は悪化している。
22. <大阪府 古紙収集加工 >
新聞古紙の発生は、前年同月と比較しても厳しく、また白物古紙もロシアによるウクライナ侵攻の影響により大幅な減少となっており、業界全体としての景況は悪化している。
23. <愛媛県 機会すき和紙 >
衛生用紙の5月の国内出荷は、前年同月比6.8%減、7ヶ月ぶりのマイナス。大手メーカーを中心に価格改定は着実に浸透中である。
24. <佐賀県 製紙・販売・印刷・加工 >
原材料値上げ分の価格転嫁は少しずつ進んでいると思われるが、その他の消耗品関係の値上げもあり、収益改善とまでは至っていない。

印刷

25. <北海道 印刷 >
価格据置だった用紙メーカーの値上げ表明があり、今後顧客への価格転嫁が円滑に実施できるか不透明な状況となっている。
26. <岩手県 印刷・同関連 >
各種行事の復活とそれに伴う人流の増加は印刷物の需要に繋がる。資材の値上げは出揃った感はあるが、今後2次3次の値上げも予想され、収益状況の改善傾向は不透明である。
27. <千葉県 印刷・同関連 >
大きな変化はまだない。今一番心配しているのは、材料費の値上げだと思われる。一部業者より値上げの文書が届いたところである。
28. <長野県 印刷 >
事業年度も3か月が経過したが、withコロナの経済活動が続く中、資材の値上がりもあり好転する状況が見えない。販売価格は一部転嫁できている所もあるが難しい状況です。
29. <兵庫県 印刷・同関連 >
景況は5月よりは改善したが小幅にとどまっており、景気回復の業界への波及が限定的であると思われる。SDGsの浸透や各種燃料の値上げによって紙離れが一段と加速している。
30. <熊本県 印刷 >
すべての材料費が20%前後値上がりし、粗利が大きく減少している。電気代、ガソリン代等も高騰し、粗利が更に減少となる。

化学・ゴム

31. <茨城県 自動車部品 >
企業により差があるものの総じて厳しい状況が増している。中でも、物価上昇に対して従業員の給与を確保するためには残業を認めなければならず、企業努力に限界が到来しつつある。
32. <富山県 医薬品 >
原料の高騰に加え、燃料や副資材等のあらゆる物の価格が上昇しているが、全てを製品へ価格転嫁するのは難しい。

33. <愛知県 高圧ガス >
仕入れコスト上昇に伴う販売価格是正により売上増となっているが、収益改善にはつながっていない。輸送機器向け出荷量の減少が大きく影響している。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >
石鹼は販売数量で前年を上回るところまで回復し、合成洗剤は洗濯、台所、住宅家具用共に前年数字を上回り順調に推移しているが、原材料への高騰により業界の景況としては悪化している。
35. <奈良県 プラスチック >
売上高は増加に転じているものの、原材料・資材や輸送コストの高騰が長引いているため、引き続き販売価格への転嫁を進めている。少しずつ改善に向かうも先行きの見通しが立たない状況。
36. <広島県 工業用ゴム製品 >
先月から大きな変化はなし。向こう3ヶ月にかけても、注文量の回復は自動車産業を中心に見込めない模様である。現状は、間接人員にも休業要請をしている。

窯業・土石製品製造業

37. <秋田県 生コンクリート >
6月の出荷数量は前年同月比91.9%で、4～6月の累計で前年比97.6%となった。原材料等の価格上昇による生コン価格への転嫁は、基本的に価格転嫁はできず厳しい経営を強いられている。
38. <石川県 陶磁器・同関連製品 >
相変わらず一部の商社で中国市場の買い付け注文が途絶えない。一方で、素地や副資材等の値上げで利益が減っている商社も多い。
39. <山口県 生コンクリート >
出荷量は、前月比81%、前年同月比94%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定しているが値上げの動きがある。
40. <香川県 石材加工 >
急激な円安と中国製品の価格高騰による仕入価格の値上がり分を販売価格に転嫁できていない。加工賃の値上げを実行している事業所もあるが、値上げをしていない事業所が多数である。
41. <佐賀県 窯業・土石製品 >
共同販売事業の取扱高は徐々に増えているが、コロナ以前と比較すると約30%ダウンと、復調とまではいかない。オンライン販売や海外向け商品の取扱いで落ち幅を最小限に食い止めている。
42. <沖縄県 ガラス製品 >
シーズンオフとはいえ観光客の入客も目立ち、前年同月比売上を30%ほど伸ばした。各店舗も時短営業を解消して通常営業に戻しつつある。

鉄鋼・金属製造業

43. <福島県 鉄構 >
鋼材不足及び高騰が続いている。7月には鋼材の値上げが予定されており、材料見積単価が決まらず、いくらで仕事を受けるのか判断するのが難しい状況。
44. <東京都 金属製品 >
前年同月比で売上が増加した。海外製品の値下げが国内製品の価格も押し下げている。日本メーカーも値下げ、荷止めを繰り返すため、在庫は若干増加している。
45. <新潟県 作業工具 >
全体的に価格の引上げにより前年同月比売上高が伸びている企業もあるが、前年はその前の年のコロナ禍からの回復と巣ごもり需要という要因があったため、勢いとしては鈍っている。
46. <石川県 一般機械器具 >
建機・工作機械等の生産基調は力強いものがあり、頼もしい限りであるが、「モノ」が揃わないので生産リードタイムが長期化し、回転率が悪く景気の好循環には結びつきにくい状況が続いている。
47. <島根県 鉄鋼 >
製缶、金物各社とも、ある程度の仕事量は確保されており、比較的忙しい状況である。鋼材価格の大幅な上昇を受け、見積時と決定時の価格の乖離が懸念している。
48. <大分県 鋼構造物 >
中小物件の見積が少なく、物件自体も減っている。小規模物件を手掛ける企業にとっては大変厳しい状況である。雇用調整金をいただいて凌いでいる企業も出てきている。

一般機器製造業

49. <山形県 その他の電気機械器具 >
原油の値上げにより原材料も値上がりしており利益率が下がっている。特に部品の製造業は厳しい状況にある。一方で、ICチップ製造業は大変忙しい。

50. < 栃木県 一般機械器具 >
燃料費の高騰、電気料金の燃料調整額の大幅な上昇が不安材料になっている。企業間によって格差が大きい。収益がある企業と悪化している企業がはっきり分かれている。
51. < 富山県 金属工作機械 >
受注状況について、前年同月比101.8%となった。軸受、工作機械関係は低調ながらもロボットや油圧の受注増により、全体ではアップをキープしている。先行きが懸念される。
52. < 三重県 一般機器 >
コロナ影響は小康状態となったが、半導体不足や長期化する紛争や急激な円安により材料不足、特に仕入れ価格の上昇などで引き続き企業経営に悪影響が出ている。
53. < 島根県 一般機械器具 >
上海ロックダウンの影響で元請企業の稼働率も改善されず、特に鋳物関連の輸入状況が悪い。国内にも鋳物製造企業は多く、品質も良い筈だが、価格面から海外製品を使用しているようだ。
54. < 広島県 一般機械器具 >
出荷時期の変更や、一部の部材不足により製品が完成せず出荷が出来ない事が要因となり、売上は前月比20%増加、前年同月比15%減少となった。

電気機器製造業

55. < 山梨県 電気機械器具 >
前年分の納品遅れが一段落したことで売上げは確保できたが、再び半導体が不足し半完成品が増加する結果となった。
56. < 長野県 電子機械器具 >
全般的に製造業は上向き傾向である。但し、相変わらず原材料は不足気味ではあり、原油価格の上昇もあり収益状況は減少傾向。
57. < 静岡県 電気機械器具 >
大型冷蔵庫は販売好調で昨年を上回る生産量で推移している。上海のロックダウンは解除されたが、現地部品メーカーの生産出荷は混乱しており、部品調達難は続いている。
58. < 愛知県 電気機器 >
増収減益状況は変わらない。部品調達は若干改善傾向だが、不足資料の心理的要因もあり、過剰気味の在庫手配になっている。
59. < 広島県 電気機械器具 >
売上は前月比40%増加、前年同月比15%減少。工作機械の順調な回復基調が要因で徐々に増収に向かっているが、依然として部材の調達難や価格の高騰は続いている。
60. < 長崎県 電気機器 >
コロナ禍の影響で受注が減少しており当面の売上減少は避けられない。部品の欠品や納期の遅延から製作に影響が出ており、客先の希望納期に間に合わせられず受注を逃すことがある。

輸送用機器製造業

61. < 群馬県 自動車・同附属品 >
販売価格が上昇している企業がみられるも、依然として半導体不足と部品供給不安定の影響で売上高は減少している。
62. < 岐阜県 輸送用機器 >
当組合組合員の主要事業である航空宇宙関係は、ボーイング社の新型機開発の遅れや品質問題に加え、新型コロナウイルス感染症による旅客の大幅減少により、長期にわたり低迷している。
63. < 愛知県 輸送機器 >
自動車部品においては、半導体不足等の影響を受け、メーカーの操業停止の煽りで生産量がかなり減少している。鋼材価格の高騰も続いている。
64. < 山口県 鉄道車両・同部品 >
鉄道車両関係は順調に推移しており、国内業者の今年度の受注は確保の見通しであるが、再来年度以降の新車両計画は大幅減少見通しで、それに伴い受注高も減少が見込まれる。
65. < 高知県 船舶製造・修理 >
生産状況は引き続き高水準で推移しています。新型コロナウイルスの影響は少ないが今後は感染者が増加傾向にあり、再び経済活動が停滞するの心配される。
66. < 大分県 造船 >
日本の造船業界では受注が活発化し、各造船所ともこの先2年分の受注を受けている。但し、各造船所とも鋼材の価格高騰等で見通しが立っていない。

その他の製造業

67. <秋田県 曲げわっぱ >
戦争に伴う世界的な物資や資源の高騰、円安の影響を受け、製造に係るあらゆる方面（仕入れ、物流）において価格が高騰し、苦慮している。
68. <東京都 靴 >
秋物の受注が若干好転している。但し、バーゲン期間中ということで、納品ができず在庫が増えている。諸材料高騰の顧客心理への影響が懸念され、まだまだ本格的な好転とは言えない。
69. <福井県 眼鏡工 >
受注については、アメリカ向けOEMを中心にコロナ前の水準に回復。企業によっては来年当初までのバックオーダーを抱えているところもある。
70. <和歌山県 なめし皮・同製品・毛皮 >
冬物から来春物に向けてのサンプル注文が散見されるものの、業況は依然として低調である。消費意欲の向上を願う。
71. <香川県 漆器 >
前期より売上は増加したが、諸資材の高騰により収益は悪化。各社共値上げの必要性は感じているが、価格を高く設定すると売れなくなるのではとの不安が強く価格設定に苦慮している。
72. <福岡県 畳等生活雑貨品 >
6月は好天にも恵まれ、受注増で多忙。少しは安度感がある。組合全体としては、コロナ感染の長期に渡る影響があり、注視している。

《非製造業》

卸売業

73. <栃木県 化粧品 >
業況に大きな変更もなく、今のところ半導体関係以外の商品の値上はないが、メーカーより円安の影響により値上げをほのめかす発言が出ている。
74. <東京都 電線 >
半導体などの部品不足で電線供給分野の動きが乏しい。特に自動車分野、産業機器分野向けが伸びない。建設分野も銅価の高騰や建材価格の上昇などで案件の延期、様子見がみられる。
75. <新潟県 花卉 >
高温の影響で産地からの入荷が不安定であった。前半は葬儀が多かったが入荷減少により高単価で販売。後半は入荷が増えたが需要がなく、安値での販売となった。
76. <兵庫県 建築材料 >
仕入価格が上昇の一途を辿り、見積りの依頼さえなくなりつつある。木造公共建築物も当初地産地消を提唱していたが、大量に必要な部材は現実的に産地を問わなくなりつつある。
77. <奈良県 資源回収 >
鉄スクラップの入荷は少なく価格は少しずつ下がっている。古紙は特に新聞・雑誌の入荷が少なく、価格は中国輸出は上がってきているが、国内の変動はない。
78. <高知県 生鮮魚介 >
カツオは順調に入荷している。マグロは近海で取れているが、良い品物が少ない。小物ではアジの入荷が少ないが順調である。

小売業

79. <青森県 食料品 >
イトインのお客様は伸び悩んでいるものの、テイクアウト受注が増加傾向。通常の売上回復迄は時間を要する状況であるが前進しているように感じる。プレミアム商品券利用者も増加している。
80. <群馬県 機械器具 >
梅雨明けと共に夏物商品の動きが活発化し、エアコンの点検修理の需要も高まり業況は好転している。一方でテレビ・オーディオ・レコーダーといった娯楽関係家電の動きは鈍い。
81. <山梨県 電気機械器具 >
前年同月比売上げは▲10%となった。6月の猛暑により例年よりエアコン需要が早まっているが、半導体不足等の影響により品薄状況が続く、取付けできない状況が続いている。
82. <奈良県 プロパン >
原油価格は高騰しているが、不需求期に入ったためLPガスは若干下げに転じている。しかし、円安の影響もあり末端価格は高い価格が続いている。
83. <岡山県 自動二輪車 >
新車の入庫は少ない。中古車の価格は、人気車の場合、新車価格を上回っている。
84. <鹿児島県 中古自動車 >
依然として、半導体不足や新型コロナウイルス感染拡大に伴う部品供給遅延による長納期化の全体的な解消には程遠い状況が続いており、厳しさを増している。

商店街

85. <宮城県 商店街 >
6月は人出がかなり増加したが、飲食店の客入り数の格差が見られる。休日は中心部の人出が減少傾向にある。コロナ後を見据えてか新規開店が見られた。
86. <新潟県 商店街 >
暑さが続き、夏物商品の動きが出てきた様子。しかし、まだまだコロナ禍前の様な動きには至っておらず、財布の紐がまだ堅い様である。スタンプ売上も前年の水準をクリア出来なかった。
87. <岐阜県 商店街 >
人出も多くなり雰囲気は良くなったが、販売に結びついていない。コロナ禍前に戻るにはしばらく時間がかかりそうである。物価の上昇が気になる。

88. <奈良県 商店街 >
 コロナの感染が「一息ついた」状況で、修学旅行生の姿が増え、国内の観光客については一定程度戻ってきたといえる状況になった。
89. <徳島県 商店街 >
 組合から脱退する飲食店が発生した。コロナ禍で組合費の支払いが負担になっているとのことである。一方で、週末の人通りは増えてきている。
90. <長崎県 商店街 >
 6月後半から新型コロナウイルス感染症の感染者数が再び増加傾向にあり、影響が懸念されるどころだが、現時点では景気は引き続き回復傾向にあると思われる。

サービス業

91. <福島県 理容 >
 6月は例年になく暑い日が続いたことから、来店サイクルが早まってきていた。新型コロナウイルス感染者数は減少してきているが、夜の飲食を控えているというお客様の声が多かった。
92. <東京都 ゴルフ会員権買取販売 >
 会員権相場は若干ではあるものの右肩上がりでも推移している。売主の売り控えのため売り物が少なく、買い需要を満たせない傾向が続いている。
93. <静岡県 不動産取引 >
 建築代金の高騰により、不動産購入の商談に時間が大幅にかかるようになり、予算オーバーで見送りとなる事例が多発した。
94. <大阪府 警備 >
 コロナ禍の影響はあるものの徐々に社会が動き出し、業界も回復傾向にあるが、慢性的な警備員不足が問題となっている。
95. <高知県 旅館・ホテル >
 リカバリーキャンペーン、トク割等行政支援策の下支えやインターハイ受入などにより宿泊人数、予約は順調に伸びて好転したが、コロナ前と比較すると7割程度である。
96. <沖縄県 ホテル旅館 >
 6月は、昨年対比で宿泊人数、売上、稼働率ともに200%となっている。但し、コロナ前の2019年比6割程度。感染者数増加は気になるが、withコロナの感染対策にも理解を得られている。

建設業

97. <山形県 管工事 >
 民間工事の減少と、公共工事の受注競争の激化が起きている。採算割れで受注できない案件も出始めている。
98. <神奈川県 空調設備工事 >
 今だに県内の工事量は動きがなく少ない。改修工事や小規模工事などはあるが大型物件工事は少なく安価で受注していて利益などが少ない。材料費等の値上げで厳しく、今は先が見えない。
99. <福井県 ブロック工事 >
 売上は上がっているものの、実際販売価格が上昇しているため、利益にはつながっていない。利益もすべて経費に回ってしまうため、新たな設備投資等が全くできていない状況である。
100. <京都府 一般土木建築工事 >
 依然として、資材高騰により仕事確保の競争が激しい状況が続いている。合板の品不足も続いており、また、各材料の相場価格も高い水準である。この結果、利益の捻出に苦労している。
101. <徳島県 板金工事 >
 今月の上棟数は昨年並みに増加しているが、材料費の値上がりは続いているため、利益率は悪化している。
102. <宮崎県 管工事 >
 売上は前年比変わらずだが、前年が前々年比マイナス15%であるため、結果としては伸び悩んでいることになる。また、公共事業の管工事が昨年同様、発注がない。

運輸業

103. <北海道 一般貨物自動車運送 >
 日用雑貨品については、道外発着ともに荷動きが悪い。特に建築関係において建築資材高騰の影響で工事案件が減少しており、厳しい状況になっている。
104. <埼玉県 運輸 >
 荷物量は9割位まで回復している。燃料価格も国の補正予算による補充により安定している。半導体不足が車業界全体に影を落としている。

105. <山梨県 道路貨物運送 >
前年同月と比べ売上げは10%程増加したが、収益は▲5%となった。荷主別の売上げは減少傾向にあるが、荷主の数を増やすなどで売上げアップを図っている。
106. <和歌山県 道路貨物運送 >
業界の多重構造、燃料価格の抑制、貨物輸送のコストアップに対する荷主・元請の理解など様々な要因によって、燃料高騰の運賃転嫁が進まない。
107. <愛媛県 観光バス >
6月の貸切バスの営業状況は、学生団体等の稼働増や県外ツアー客増により各地区とも昨年の実績は大きく上回り、2019年度と比べると約▲10%~▲30%前後と持ち直し傾向にある。
108. <鹿児島県 運輸 >
値上げの影響なのか、製品は昨年と比べても物量が少なかった。燃料高騰で収益状況が悪化しており、運賃値上げや燃料サーチャージをお願いしているが上がらない。

その他の非製造業

109. <千葉県 輸出入 >
成田空港の国際線旅客数が、先月より30%ほど伸びてきた。店舗売上も4、5月に比較して売上の伸びは著しい。外国人客利用客も本来の状況には、まだ遠いが、今後、十分期待できる。
110. <神奈川県 不動産 >
物価上昇を見据えているためか購入意欲の低下が顕著である。売行きが好調だった今年始めに比べ売行きが一気に低下したため、好調時に仕入れた在庫が掃けず苦戦している業者が目立つ。
111. <新潟県 砂利採取 >
骨材単価の値上げは浸透しているものの、発注されている工事の着工が遅れていて、出荷の予定が立たない。
112. <兵庫県 物品賃貸 >
成約案件が増加傾向にあり、今期実績に期待できる状況だが、資材、燃費等の高騰により採算において不安要素が大きくなっている。暫くは注視していく必要がある。
113. <岡山県 信用組合 >
各業種の売上単価の見直しについては中小零細企業は時間がかかる為、資金繰り支援を手厚く行うとともに、目先の課題解決を図る伴走支援を強化していきたい。
114. <福岡県 砂・砂利・玉石採取 >
売上高は対前年比105%。R4/4より価格改正実施のため伸びているが、販売量そのものは減少しているのので、収益状況には変動が無い業況である。